

Ⅱ. これからの河南町地域公共交通について

1. 運行継続のための経過等

【事業の経緯】

- 北部と南部の連絡、通学・通院・買物などの交通手段
- 平成 28 年 2 月からカナちゃんバス、やまなみタクシーの実証運行を開始
- 実証運行開始からこれまでに約 10 万 2 千人が利用（平成 30 年 11 月末）
- 地域公共交通として定着し、住民生活の質の向上に寄与

【実証運行のまとめ】

- 利用者数は増加傾向
- 実証運行 3 年目は 2 年目に比べ、当面の目標にしていた利用者数 10% アップを達成する見込み
- 3 年目の実証運行（平成 30 年 2 月～平成 31 年 1 月）の収支率は、評価基準の 10%～15% を達成する見込み

【実証運行の評価】

- 地域公共交通サービス水準の向上
- 可能な財政負担（河南町の最優先施策）
- 利用者数が増加傾向
- 河南町としての重要施策 など

本格運行に移行

【本格運行後の取り組み】

- 経費削減の取り組み
- 需要喚起策の実施
- 河南町のまちづくりとの連携強化 など

【本格運行後のPDCA】

- 社会情勢などに対し地域公共交通の運行を継続するため、PDCA を実施
- 収支率、利用者数の動向を見て、廃止、中止を含め、運行内容の見直しなどを行う
- 評価の基準
 - ・ 住民生活向上の必要性
 - ・ 利用者の満足度
 - ・ 収支率 など

2. 当面の目標設定の達成状況

運行継続の方向性

【平成 29 年度 第 1 回交通会議】

当面の目標設定として、年間を通して現行利用者数の 10%UP を目標とする。

【カナちゃんバス+やまなみタクシーの利用者数】

	利用者数	増減率（対前年比）
実証運行1年目（H28.2～H29.1）	26,087	—
実証運行2年目（H29.2～H30.1）	39,573	51.7%
実証運行3年目（H30.2～H31.1）	44,600*	12.7%

*実証運行3年目の数値は予測値（H30.1 2月以降の利用者数は11月の実績値を適用）

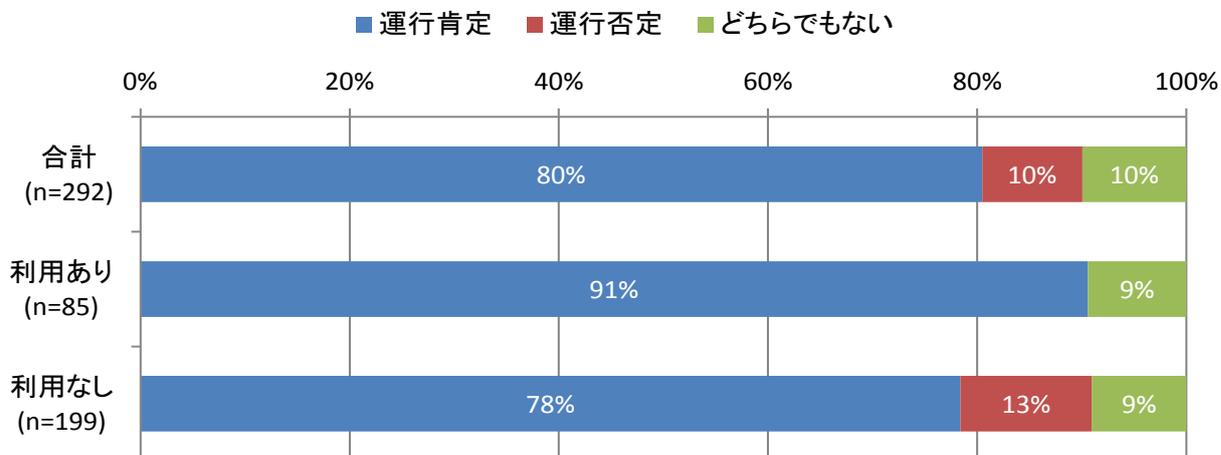
「カナちゃんバス（町内循環路線）」と「やまなみタクシー（山手路線）」の実証運行利用者数は、実証運行2年目に対して、12.7%増と予測された（当面の目標設定 利用者数 10%UPを満たす）。

実証運行を踏まえ、運行を継続して実施することができると見込まれるので、「本格運行」への移行する。

今後も社会情勢の変化や利用者数の動向に対し、PDCAを実施する。

【参考】

＜カナちゃんバス・やまなみタクシーの利用有無別の運行の肯定・否定の意見割合＞



資料：住民アンケート調査（平成 29 年 9 月実施）

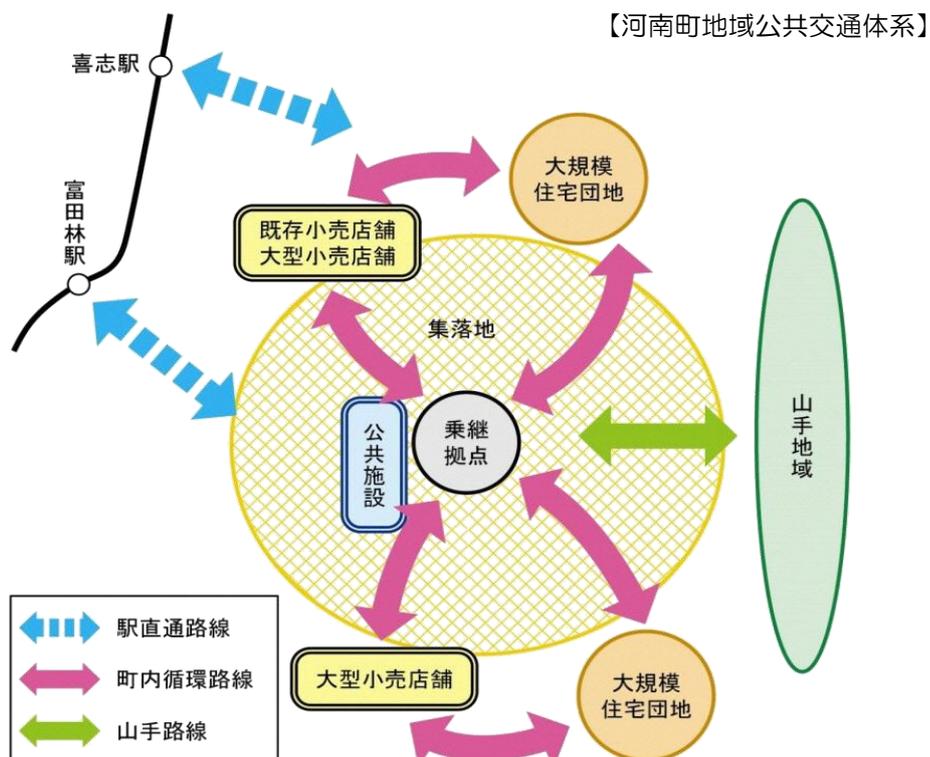
3. 運行継続に向けての実施内容

(1) 河南町が目指す地域公共交通

【平成 29 年度 第 2 回検討会議】

- ◇河南町のクルマ依存の地域構造を大胆に変革する。
- ◇骨格である金剛バスと地域内交通を連携する交通システムの構築
- ◇高齢化、少子化社会を活性化し豊かな河南町を創る自前の交通を持つ
- ◇河南町の将来とも持続できる交通システムの構築

- 河南町の地域公共交通体系は、住宅の立地状況や需要、目的などに応じた適切なサービスの提供
 - ・各区域と鉄道駅を結ぶ「駅直通路線（路線バス）」
 - ・大規模住宅団地や集落地などと町内の商業施設や病院、公共施設などを移動する「町内循環路線（町内循環バス）」
- 「町内循環路線（町内循環バス）」では対応していくことが困難な区域（山手地域など）へは、福祉・高齢者施策としての交通システムなどの総合的な施策展開により対応していくことが必要



「カナちゃんバス（町内循環路線）」と「やまなみタクシー（山手路線）」を一つの交通システムとして位置づける

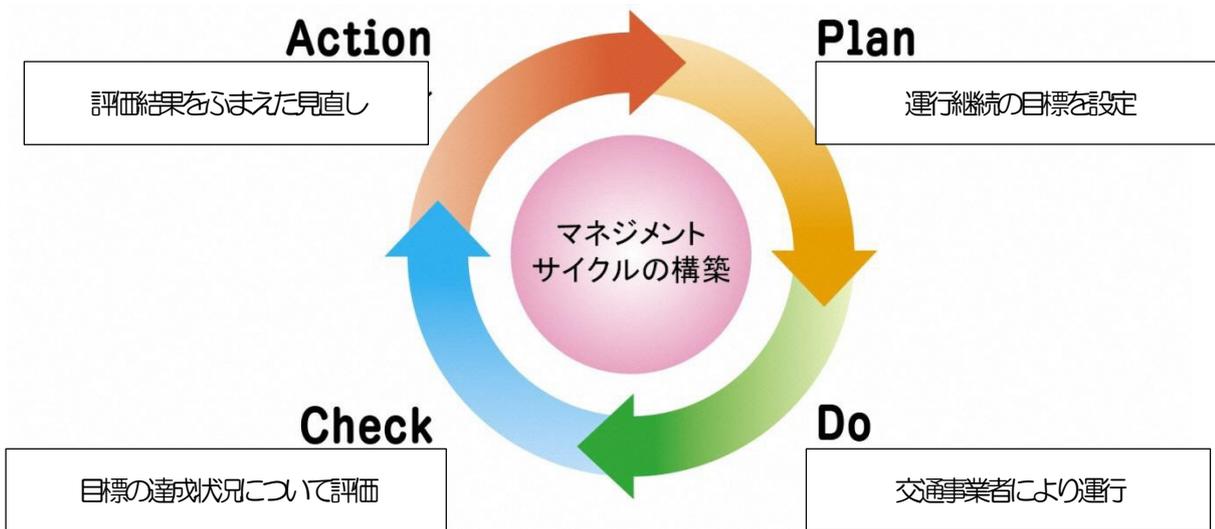
(2) 運行を継続のための必用事項

①PDCAサイクル

河南町地域公共交通の運行に対し、社会情勢の変化や利用者の動向などに対し、チェック及び見直しなどPDCAを実施する。

社会情勢の変化や利用者の動向に対し、地域公共交通の運行継続についてを評価し、利用者ニーズに応じた改善等が必用かの判断を行うため、PDCAを実施する。

運行継続の目標を設定(Plan)し、交通事業者により運行(Do)し、目標の達成状況について評価(Check)し、評価結果をふまえて、廃止、中止、運行継続のための見直しなど(Action)を行う。



②評価項目（平成 29 年度 第 1 回検討会議）

地域公共交通を適性に継続していくためには、「社会システム」、「交通システム」、「地域が支える交通体系」を3本柱として評価する。

■ 社会システム面の評価

個別の運行による利用者の利便性向上による評価に加え、河南町全体から見た公共交通の総合的な評価によって決まる。当初設定した運行目的との関連から定性的な評価を行う。

●まちの活性化を担う交通体系

住民が移動しやすい交通体系の確立においては、中心市街地や大型商業施設のアクセス手段として、また、大型商業施設、道の駅などと連携し、まちなかの賑わいを創出・活性化を担う交通体系を確立する。

河南町の活性化を担う交通システムとなっているか

●住民が利用しやすい交通体系

自動車の運転ができない高齢者や子どもなど交通弱者と呼ばれる方をはじめとして、住民が安心して日常生活を過ごせる生活交通を確保する。

住民が利用しやすい交通システムとなっているか

●効率的で連携した交通体系（公共交通ネットワークの充実）

各交通システムにおける役割を明確にして交通システムの一体化、連携を行い効率的な交通体系を確立する。

効率的な交通ネットワークになっているか

●需要に見合った効率的な交通体系

利用状況や地域の実情を加味しながら、需要希望の多い運行日、運行路線などを厳選するなどの改善を図り、効果的・効率的な交通システムを目指す。

将来的にも需要に見合った効率的システムとなっているか

●適正な土地利用への誘導を支援する交通体系

河南町は大規模な住宅団地と市街地、山手地域が存在している。近年、少子高齢化などの社会問題により、まちの活性化が課題となっている。このため、北部と南部の大規模住宅団地と市街地、山手地域のアクセスを確保し、適正な土地利用への誘導を支援する交通システムを目指す。

河南町の適切な土地利用を支援する交通システムになっているか

■交通システム面の評価

評価基準は現行の運行状況と河南町全体から設定する

【現行運行から見た評価基準の設定（定量的評価）】

評価項目	評価基準	
費用効率面	収支率 (運行経費に対する運賃収入割合)	10%~15%以上 → 継続
利用状況面	1日当たりの利用者数	40人/日以上 → 継続
	バス停。停留場利用者数	0人 → 見直し・休止
	満足度	50%以上 → 継続
	利便度	

■地域が支える交通体系

●地域が支える

少子高齢化社会など、公共交通の存続が課題となっている中、地域や住民が協働して支える持続可能性の観点から、町の財政負担の効率化を図りながら、サービス水準の維持または向上を目指す。

住民が負担に耐えるシステムか（町の財政負担に耐えられるか）

「社会システム面」、「交通システム面」、「地域が支える交通体系」を3本柱とし評価を行う。

③実証運行の評価

	評価項目	評価指標	目標値	計測方法	評価方法	実績値 (実証運行 3年目)
社会システム面	まちの活性化を担う	スーパーなどの行きやすさ割合	50%以上 → 継続 50%未満 → 見直し・休止	利用者における割合	利用者アンケート調査により確認	83%
	住民が利用しやすい	利便度				89%
	効率的で連携したシステム	乗り継ぎ割合 (カナちゃんバス・やまなみタクシー)	20%以上 → 継続 20%未満 → 見直し・休止	利用者における乗り継ぎ割合	利用状況を確認	20.4%
	需要に見合った効率的なシステム	利用有無別の運行の肯定・否定割合	50%以上 → 継続 50%未満 → 見直し・休止	利用の有無別における割合	住民アンケート調査により確認	利用あり :90% 利用なし :78%
	適正な土地利用への誘導を支援するシステム	スーパーなどの行きやすさ割合	50%以上 → 継続 50%未満 → 見直し・休止	利用者における割合	利用者アンケート調査により確認	83%
交通システム面	費用効率面	収支率	10%~15%以上 → 継続 10%未満 → 見直し・休止	運行経費を収入で除して算定	収支状況を確認	12.7%
	利用状況面	1日当たりの利用者数	40人/日以上 → 継続 40人/日未満 → 見直し、休止	利用者数の情報による調査等	利用状況を確認	126.8人/日
		1日当たりのバス停利用者数	0人 → 見直し・休止			なし
		満足度	50%以上 → 継続	利用者における割合	利用者アンケート調査により確認	80%
		利便度	50%未満 → 見直し・休止			89%

* 実証運行3年目の実績値はH30.2~H30.11の実績

* 住民アンケート（平成29年9月実施）



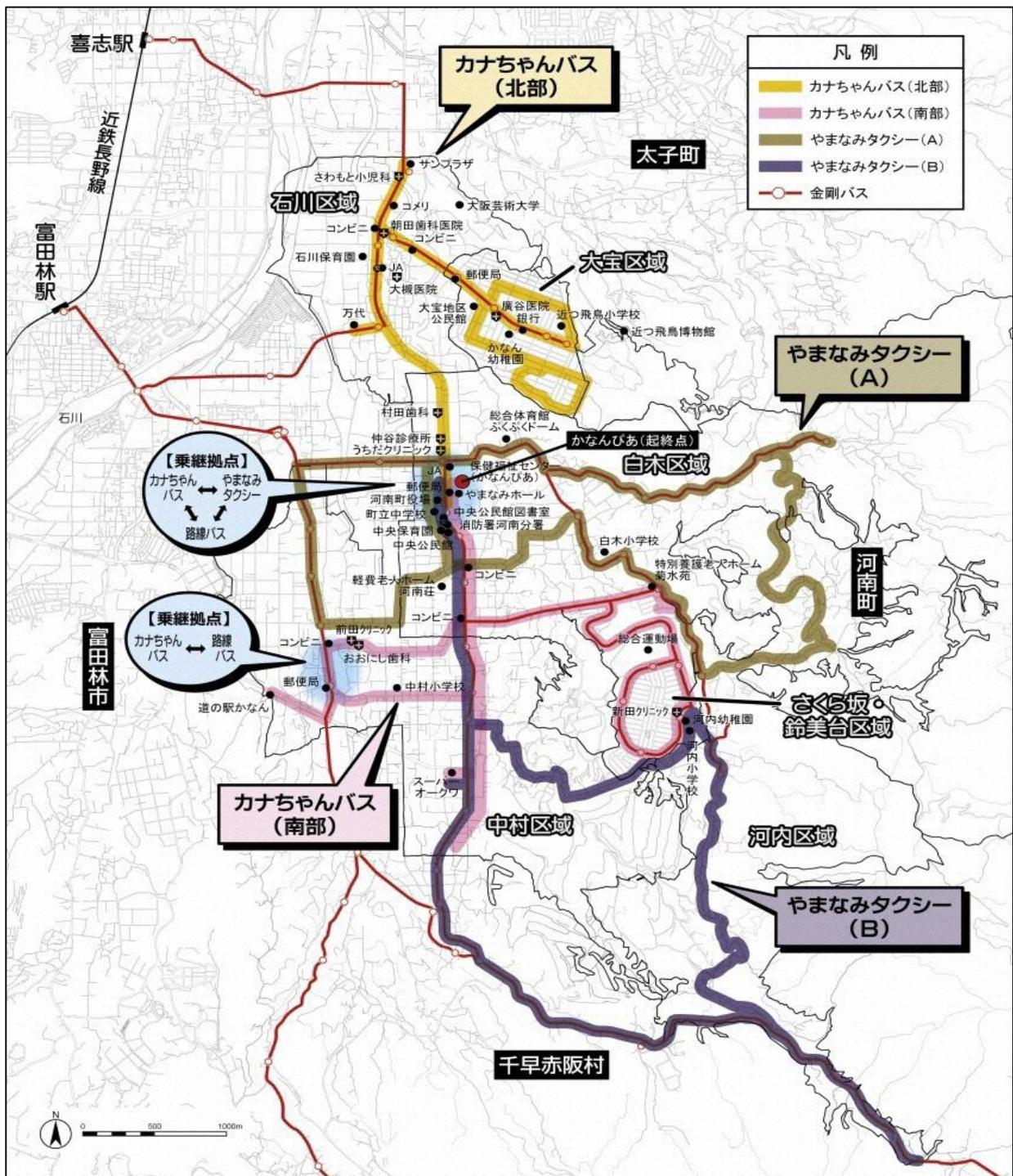
実証運行を3年間継続し、今後も継続して運行を行うことが可能と見込まれるので「本格運行」に移行する。

④平成31年2月以降の運行

■ 運行内容

- ・カナちゃんバス（北部）：毎日運行 運賃 100 円/回 マイクロバス（28 人乗り）1 台
- ・カナちゃんバス（南部）：毎日運行 運賃 100 円/回 マイクロバス（28 人乗り）1 台
- ・やまなみタクシー（A）：週4日運行 運賃 100 円/回 セダン型車両（4 人乗り）1 台
- ・やまなみタクシー（B）：週4日運行 運賃 100 円/回 セダン型車両（4 人乗り）1 台

※現在の運行を継続



⑤需要喚起策の継続・実施

【平成 29 年度 第 1 回交通会議資料及び追加記載事項】

	利用促進策
利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> • <u>10 枚綴り乗車券の販売(12 月 1 日より販売)</u> • <u>バス停・停留所の改善(3月に新設)</u> • <u>バス運行情報の徹底(広報誌等を活用して実施中)</u>
利用促進策 (コミュニティーでの取 り組み)	<ul style="list-style-type: none"> • <u>道の駅、オークワ、万代など商業施設とのタイアップ(サンプラザと大宝地区で宅配サービスを実施中、道の駅かなんの協力による、お買い物券の車内配布)</u> • <u>地区での支援組織づくり(大宝地区、さくら坂・鈴美台地区で活動中)</u>
利用促進策 (行政が中心)	<ul style="list-style-type: none"> • 免許返納者へのサポートの検討 • <u>町主催のイベント等との連携(桜まつりで利用促進呼びかけを実施)</u> • <u>金剛バスとの連携施策の検討(ガイドブックに金剛バスの時刻表を掲載)</u> • <u>観光とのタイアップ(モデルコースをガイドブックに掲載中)</u> • 住民・中学生からのアイデア募集 • バリアフリー対応の車両導入の検討 • <u>町中心部をにぎわいのあるまちとするための活性化対策の検討</u>
持続可能な公共交通 へ	<ul style="list-style-type: none"> • <u>サポーター制度の導入(平成 30 年 2 月より発行)</u> • <u>広告、協賛金制度(実施中)</u> • 地域公共交通と連携する NPO 法人・企業の設立

※1 下線項目は実施中の取り組み

※2 青文字は追加記載事項



需要喚起策の取り組みは、平成 31 年 2 月以降も継続的に行い、河南町地域公共交通基本計画で目標と掲げた、「にぎわいのあるまちづくり」に貢献する地域公共交通、高齢者や若者が「住み続けられる、暮らしやすいまちづくり」に貢献する地域公共交通を継続して運行していくため、新たな需要喚起策の検討・実施についても柔軟に取り組む。

また、利用者の増、収支率の UP に繋がるよう、経費削減対策の実施、需要喚起策の実施、河南町地域公共交通の運行継続に対する危機感の周知(町広報誌等)などを引き続き行う。

⑥運行継続の考え方

運行継続などについて、町の運行計画等について審議してきた、「河南町地域公共交通検討会議」を発展的解消し、「河南町地域公共交通評価会議」を新たに立ち上げ、社会情勢の変化、利用状況などの要因に対し、評価、分析を行なう。

P D C Aなどについて、法的必要性に応じて「河南町地域公共交通会議」を開催し、合意形成を図る。

⑦検討・推進体制

(案)

